

【一日目】10月12日(日)晴

<行程>羽田空港集合 7:20、出発 8:05→鹿児島空港 10:00 着(2組に分かれる)遅い組 11:20 発→屋久島空港 12:20 着

ガイドさんの車で民宿へ→ハイキング用以外の荷物を預けて、ガイドさんの車に乗り白谷林道を登る→到着し昼食 13:20～13:50→コース説明 13:55



羽田で手荷物検査を終え、搭乗待ち



岩元さんに色々教えてもらう。



羽田からは JAL で鹿児島に向かう。天候は曇天。



鹿児島の上空。台風が心配されたが、晴天になった。



羽田からはこのジェット機に乗ってきた。



鹿児島空港に到着。岩元さんの説明を聞く。
カルカンをごちそうになり、お土産にと思ったが...



鹿児島からは、小型の飛行機に乗り換えた。



なんとプロペラ機であった。



屋久島に近づいてきて、島が見えてきた。



屋久島空港。平屋建てであった。



ガイドさんの車で、宮之浦にある民宿に向かい荷物を置き、白谷雲水峡に向かう。



結構の標高迄登ってきた。屋久島の山々が見える。

コース: 白谷雲水峡(白谷広場→憩いの大岩→飛流おとし→さつき吊橋→くぐり杉→七本杉→苔むす森→(登りと同じ道)→白谷広場)

参加者: 岩元(L)とC班はくぐり松の手前迄11000歩約2.5km A班とC班は苔むす森迄15000歩約3.5km



ガイドさんの車で白谷広場に着き、弁当を頂く。



ガイドさんから尻に敷くものを借りて腰を下ろした。



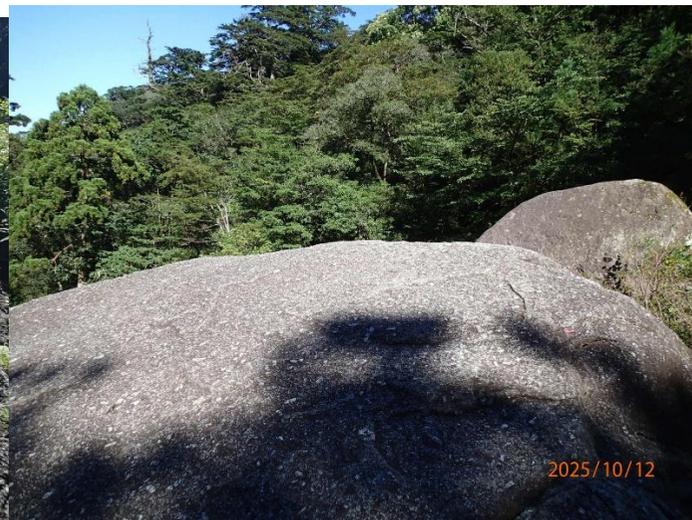
ガイドさんがこれからのコースの説明があった。



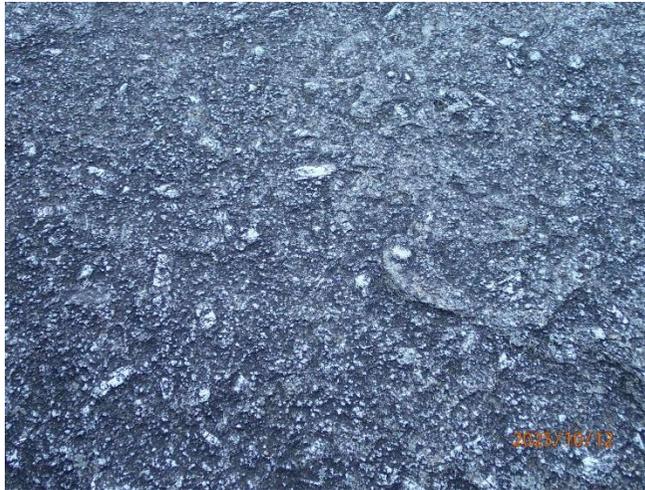
腹ごしらえも十分にでき、いよいよ出発だ。
この管理棟は標高 620m。



屋久島の岩は花崗岩でできている。



“憩いの大岩” 名前の通り本当に大きい



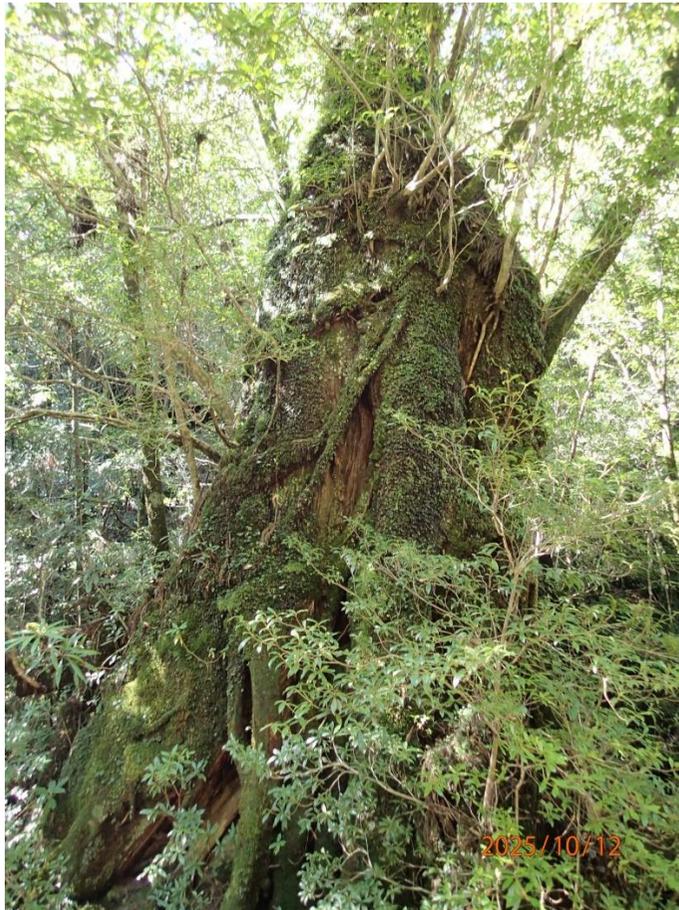
花崗岩の表面は粒子が粗く、ザラザラ
これなら岩が雨で濡れていても滑らなさそう。



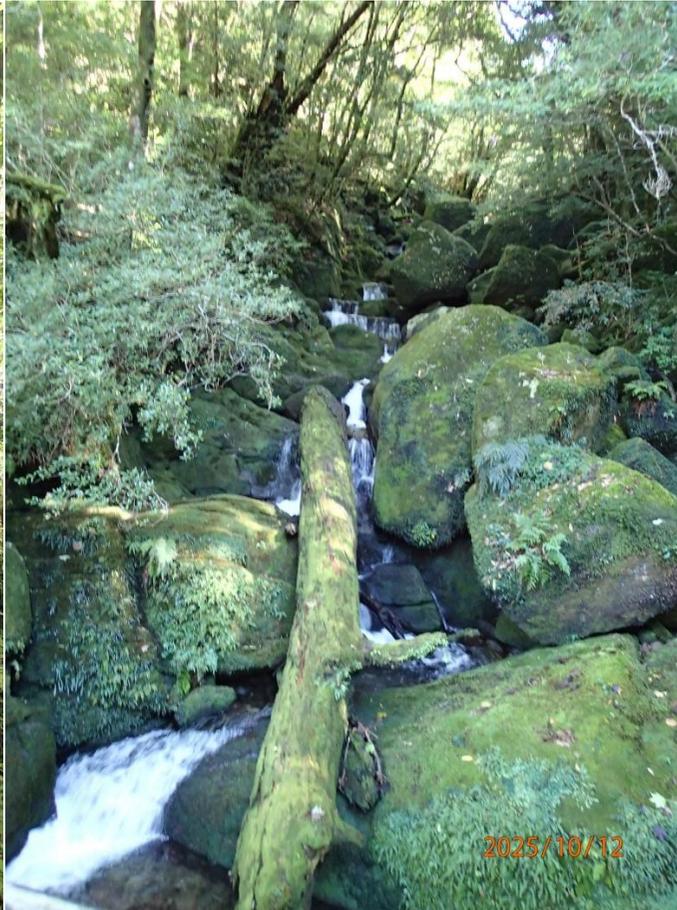
“白たえの滝”



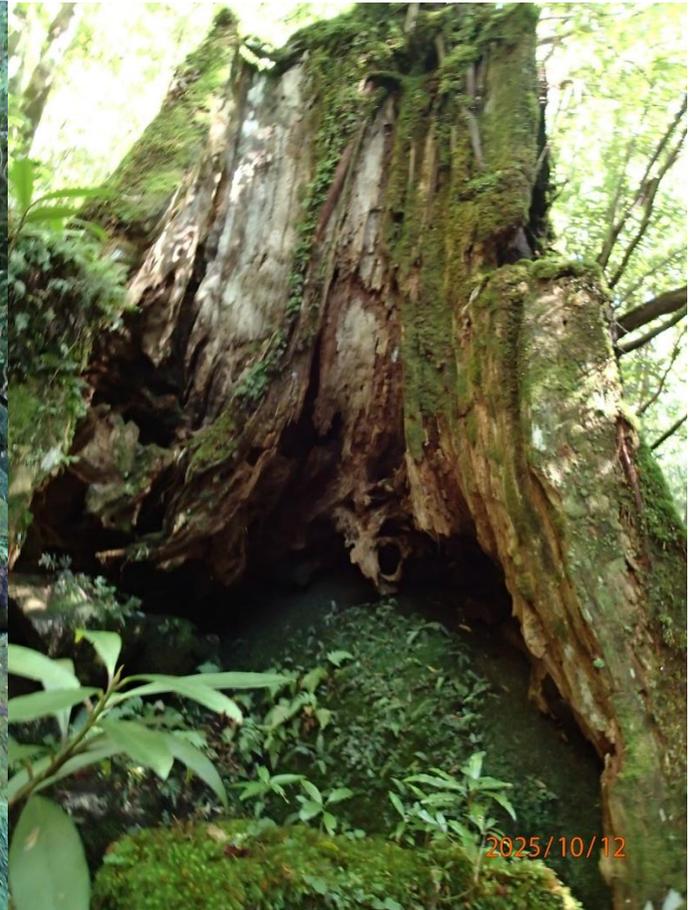
清流が岩肌を流れ下る。



二代杉
切り株の上に種子が落下して発芽生育した木。このようにして世代交代が行われ切り株更新と言われるそうだ。屋久島では至る所で、このような杉が見られるとか。



水が流れる所にある石には苔が生えている。



杉の切り株が腐らないで残っている。
江戸時代に伐採された屋久杉の用途は、主に平木(屋根の材料)用であったため、割れやすい木を選んで加工し易い部分のみを利用したそうだ。利用されなかった枝条や幹、根株は林内に放置された。屋久杉は樹脂を多く含んでいるため、200~300年たった今でも腐ることなく残っている。これらは「土埋木」(とまいぼく)と称して林内から搬出し、貴重な屋久杉加工品として利用されているそうだ。(説明看板より)



道は石がゴロゴロしていて、とても歩きにくかった。



これぞ、屋久島！石も木々もびっしりと苔がついていて、緑色の世界だ。



上の方の緑に覆われた森に見とれた。
ここで一息入れる。



“くぐり杉” 人が少し身をかかめるだけで通れる。
標高は 833m。200m程登ってきた。



昔、人が通った時に鹿が中にいたのだろうか。
江戸時代に年貢として伐採された名残りのようだ。



“七本杉”

幹の上が7本に分かれているそうだが、そこまで目が届かなかった。樹高:18.0m、幹周:8.3m

苔むす森のすぐ手前にあった。

強風で損なわれた主幹の上端をおぎなうように、上部の七本の枝が立ち上がって樹冠を形成し、日照を確保している。台風常襲地帯にありながら、倒れることなく長寿を保つ屋久杉の代表的な樹形だそうだ。



“苔むす森

その名の通り、石も岩も木々も緑のコケに覆われている。神秘的な別世界が広がっていた。そして、この中には足を踏み入れてはいけない気持ちにさせる。



雨が降っていないのにも関わらず苔からは水が滴り落ちていた。森から水が湧き出ている。



スタート地点への戻り。
清流の川を足をのせる石に注意しながら渡った。



ここは水源の森に選定されている。
きれいな豊かな水があった。



民宿「やくすぎ荘」での夕食。この宿が屋久島で一番大きな
民宿だそうだ。お風呂が大きくゆったり入れた。
トビウオのから揚げが絶品であった。

【二日目】10月13日(月)晴

<ヤクスギランドコース >8000歩 約4km ヤクスギランド(いにしへの森コース)→紀元杉→淀川小屋→笹川杉→淀川登山道→淀川杉→淀川小屋まで戻る
参加者:岩元(L)とB班とC班



民宿は宮之浦川に面している。向こうには標高 552m の鉾折岳がくっきりと見えている。今日も天候に恵まれた。

民宿からはガイドさんの車で安房林道を登っていく。林道のところどころにはシダがびっしり生えていた。

かなり上まで登ってきたて、見晴らしもよい。



右下に白く見える建物が水力発電所。屋久島の電力を賄っている。雨が多い屋久島だからこそだ。



屋久島の山々にはびっしりと針葉樹が生えている。



ガイドさんの車でヤクスギランドに向かい標高を上げてなんと標高 1000mまで登っていく。

ヤクスギランド



ヤクスギランドに到着し、森泉の建物の2階で朝食。
テーブルがとても分厚く立派なことに驚いた。



屋久島の平木は油分が多くとても長持ちする。
年貢として納めさせた薩摩藩はそれを堺の商人に売ったとか。藩財政はホクホク？



ヤクスギランドの入り口。



入口に入ってすぐに巨大なくぐり樫(ツガ)の枝をくぐる。
根元部分が空洞となっておりその下を歩道が通る。



ヤクスギランドの“いにしへの森コース”を散策。
吊り橋の荒川橋。



仏陀杉の前で。



幹の凹凸が座禅を組む仏陀のようだと名付けられたそうだ。



ヤクスギランドから更に車で登っていくと、紀元杉に。
ここから更に車で登り、淀川小屋で昼食をとった。



その後黒味岳に向かうコースを登り、淀川杉に。
上に登ってみると、空洞が見えた。



その夜の夕食。トビウオの刺身も出て舌鼓を打った。



民宿の近くの飲食店“潮騒”で慰労会。
ガイドの真辺さんと。
屋久島の焼酎“三岳”も頂きました。



刺身の盛り合わせ
トビウオの刺身も頂きました。



真辺さんには大変お世話になりました。
コースの案内だけでなく、屋久島の植物とか、
生態系等を説明してもらい勉強になりました。

悠久の時流れる神秘の島,屋久島を歩く(第2弾)

【二日目】10月13日(月)晴

<縄文杉コース>38000歩 約22km コース : 荒川登山口→小杉谷橋→小杉谷集落跡→楠川別れ→三代杉 →仁王杉→大株歩道入口→翁株→ウィルソン株→大王杉
→ 夫婦杉→縄文杉→(登りと同じ道)→荒川登山口 参加者:A 班



荒川登山口で

これからこの三人で、縄文杉を目指して出発です。これからどんな光景に出会えるのか楽しみです。往復22Kmの歩きは大変です



三代杉の前で

一代、二代、三代目と三千数百年に亘り命が受け継がれた屋久杉。



ウィルソン株に到着です

かつて存在した屋久杉の巨大な切株です。アメリカの植物学者「ウィルソン博士」にちなんで名付けられた。内部は空洞になっている。豊臣秀吉の命により伐採されたとの説が有力。



ウィルソン株の中で

空洞になっているウィルソン株の中に入りました。
ハート形の穴から、外の景色が見えます。



大王杉

縄文杉が発見されるまでは、屋久島で最大・最古の
屋久杉で、「大王杉」と名付けられた。



大王杉で

縄文杉には触れなかったけど、この杉は触っても
大丈夫。

着いた！ 11Km 歩いて、念願の縄文杉に出会いました。



縄文杉を保護するための、見学用展望デッキ上です。
後方に縄文杉が見えます。



後方に縄文杉が見えます。
縄文杉の樹齢は、2170年から7200年と幅広い。
内部が空洞のため特定されていない。科学的測定
による最低樹齢は2170年ですが、7200年説も
ある。

さあ、これから帰りの行程です。又、11Km 歩きます。
女性 2 人は元気いっぱい。私も頑張らなきゃ。

悠久の時流れる神秘の島,屋久島を歩く(第2弾)

【三日目】10月14日(火)晴 コース:屋久島一周 130km①(宮之浦港→益救神社→志戸子ガジュマル園→一湊西郷公望上陸→永田いなか浜(ウミガメ上陸日本一)→西部林道→大川の滝→栗生浜海水浴場(昼食)→平内海中温泉→千尋の滝→お茶畑→屋久島町役場本庁→海老養殖場→屋久島空港
参加者:全員 10名 6000歩 約3km



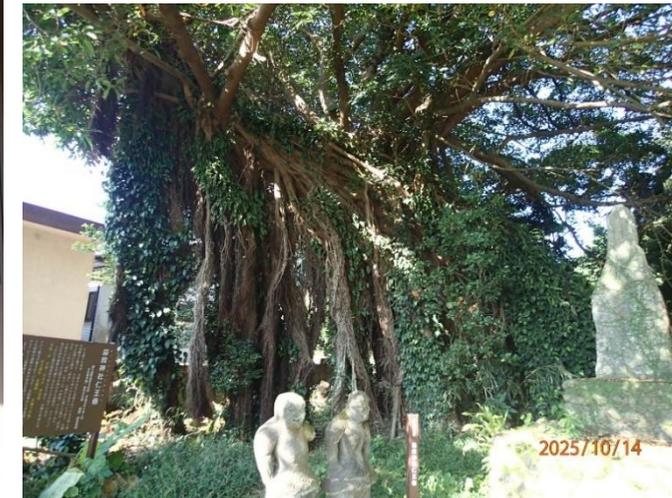
出発前に、お世話になった民宿の前で記念の1枚



宮之浦川、橋が2連で向こうは旧道



宮之浦港にはクルーズ船が入港している。



パワースポットの益救(やく)神社、平安時代中頃に編纂された、『延喜式神名帳』にも記されている古社。『日本書紀』には推古天皇の時代に 30 人の掖玖(屋久)人が都を訪れ、朝廷も掖玖に高官を派遣したとの記述があるそうだ。



益救(やく)神社から西に向かい志戸子ガジュマル公園に立ち寄った。ここには樹齢500年と言われる見事なガジュマルの大木があった。
ガジュマルは屋久島が北限と言われており、幹から無数の気根が垂れさがり、地面に根付く。



アオノクマタケラン(青野熊竹蘭)は日陰でよく排水された肥沃な土壌で繁栄するそうです。赤い実がなるとのこと



さらに進むと入江が出てきた。ここは西郷隆盛が奄美大島に島流しにされた時に、休憩の為、上陸した一湊海水浴場。

屋久島で唯一の水田があるところ。
米が沢山とれないのに何を食べていたのだろう？



さらに進むと“東シナ海展望所”。ここからは
口永良部島がかすかに見えた。盛んな活火山。



そして、“永田いなか浜”に着いた。こちらは南の方向。 こちらは北の方向。
花崗岩の砕けた白い砂と紺碧の海そして青い空が広がっていた。まばゆいばかりの景色。



この浜は、ウミガメ上陸日本一だそうだ。



ウミガメの抜け殻があった。



夏のような日差しに耐えながらポーズをとる。



世界自然遺産の認定調査団がこの風景を見て、登録の申請をするに至った一つだそうです。



島の南側の西部林道に入ると、そこは道路に樹木が覆い薄暗い所もあった。



その道路に鹿の親子と猿の親子がくつろいでいた。それを邪魔しないように、車はゆっくり進んだ。

【三日目】10月14日(火)晴 島一周コース②



西部林道を過ぎたところに大川(おおご)の滝が現れた。
水量がすごく水しぶきを浴びた。



滝つぼの手前の岩の上で



昼食を予定していた食堂が休みの為、近くの
商店で弁当などの食料を買い込んだ。

そして、栗生浜海水浴場で並んでいた。

日陰でないと暑くていられない。



浜辺ではオーストリアから来た若いカップルが
海水浴をしていた。10月中旬だが寒くなさそうだ。



栗生浜海水浴場にもウミガメが産卵に
上陸するようだ。



海水浴場の近くの民家の入り口には大きなガジュマルの木が茂っていた。



平内海中温泉。干潮でない為海水の中に隠れていた。



千尋の滝 遠くから眺めた。



お茶畑に立ち寄った。結構広い畑で栽培されている。



町役場の玄関



木造の庁舎は香りもあり、癒される。
2階への階段。



議会建屋の内部。天井の構造が巧みで面白い。



その後、エビの養殖場を見学した。



飛行機が遅れて到着。このため出発が大幅に遅れた。その為、鹿児島空港では羽田行の便に急ぎ乗り込んだ。それで、土産に買ったかったカルカンは買えずじまいに終わった。残念！



屋久島の町役場庁舎に展示されていた屋久杉。強風や雪に耐えてきたことが木の肌の凸凹に表れている。年輪は実に密で、苦勞を重ねて成長したことが伺える。世界自然遺産の屋久島を訪れることができ感謝です。